



**世界で最も売れたロック・アルバムの一つ、ピンク・フロイド「狂気」リリースから 50 年。今なお世代を超えて支持され続けるバンドの魅力をトリビュートバンドのリーダー木暮"shake"武彦、音楽評論家・鳥井賀句、長年ピンク・フロイドを担当するソニー・ミュージック白木哲也 が熱く語る 2 時間特番をオンエア！**  
**(ラジオNIKKEI 第2 3月31日 (金) 午後7時～9時)**

## ラジオ NIKKEI 開局 69 周年記念ロック特番 The GREAT ARTIST vol.3 ピンク・フロイド



英国を代表するロックバンド、ピンク・フロイドの不朽の名盤といえは 1973 年 3 月リリースの『狂気』（原題：The Dark Side Of The Moon）が挙げられる。これまで全世界で 5,000 万枚超を売り上げ、全米チャート 1 位獲得、15 年間・741 週に渡って全米アルバム・チャートにランクインし続け、カタログ・チャートでは 30 年以上ランクイン、ロングセラーのギネス記録にも認定された珠玉のマスターピースだ。本作リリース 50 周年を迎えた今年、アニバーサリーのスペシャルエディション音源が各フォーマットでリリースされるなど、世界中で『狂気』熱が高まっている。

ラジオ NIKKEI では、日本国内のピンク・フロイド FREAK の中でも特に熱狂的で、ピンク・フロイドのトリビュートバンド「原始神母」を率いる木暮"shake"武彦氏を迎えて、120 分間『狂気』収録曲をはじめとする名曲を聴きながらピンク・フロイドの魅力、木暮氏のピンク・フロイド愛を語っていただく。また 1990 年代から数多くの洋楽アーティストを手掛けた名 A&R で長年ピンク・フロイドを担当するソニー・ミュージック白木哲也氏もコメント出演でディープな話を披露。番組ナビゲーターは音楽評論家・鳥井賀句氏が務める。



【写真左 = 鳥井氏 右 = 木暮氏】

番組終盤には“既に解散したピンク・フロイドのパフォーマンスを疑似体験できる”と話題のトリビュートバンド「原始神母」の活動や、6月に日比谷野外大音楽堂で予定されている『狂気』全曲再現ライブの情報などもお届けする。

## \* 出演者プロフィール

### ■木暮”shake”武彦 (こぐれ シャケ たけひこ)



レベッカ、レッド・ウォーリアーズのソングライター、ギタリストとして活躍。1989年渡米し厚見玲衣、ケネス・アンドリュースとカジノ・ドライブとして活動。LA滞在中、10代の頃好きだったピンク・フロイドを再発見し、以後、独自のサイケデリックギターを追求。2003年、富士山麓に移住、柏原克己とヘヴィーでスペイシーなバンド、Mtデリシャス結成。2011年、自然へのトリップ感に満ちたアコースティックアルバム「水と光の魔法」発表。2017年にソロ名義のバンド、Big Mountain Blue 結成。ピンク・フロイド トリビュートバンド「原始神母」は、ロリング・ストーンズやレッド・ツェッペリンと並ぶ世界的なロックバンドでありながら、日本人には理解しづらいピンク・フロイドの音楽も、ライブで体験すればその素晴らしさを感じることが出来るという想いから、2012年木暮”shake”武彦が呼びかけ人となり、ピンク・フロイドを愛する仲間たちに声をかけて結成。ここ数年、EX THEATER ROPPONGI や CLUB CITTA'等で毎年精力的にライブを行っている。

### ■鳥井 賀句 (とりい がく)



1980年代よりロック評論家として「ミュージック・ライフ」、「宝島」、「ミュージック・マガジン」等に寄稿。ロリング・ストーンズ、イギー・ポップ、ルー・リード、パティ・スミス、キング・クリムゾン等々と独占インタビューを敢行し、またレコード・プロデューサーとして INU (芥川賞作家・町田康が在籍)、ジョニー・サンダース等のアルバム・プロデュースを手掛けたり自身もミュージシャンとして HALLUCIONZ 等で活動している。伝説の渋谷「青い部屋」のブッキング・マネージャーとしても、数多くのイベント・プロデュースを敢行。ラジオ NIKKEI ではイギー・ポップ特番の解説、シーナ&ロケッツ、PANTA/頭脳警察、寺本幸司特番のナビゲーターを務めている。パンク&ニューウェイブやガレージ・サイケ、ルーツ・ロック、60s&70s ロック、SSW 等が得意分野だが、ピンク・フロイドの初期リーダーのシド・バレットには強い思い入れがあり、自分のバンドでも「ルーシファー・サム」等彼の曲を取り上げていた。ジャーマン・プログレッシブの CAN が日本で初めて LP レコードで発売されたとき全アルバムのライナーノーツを手がけたり、キング・クリムゾンのロバート・フィリップともインタビューしている。ピンク・フロイドはプログレ云々よりも「サイケデリック・ロック」、「アート・ロック・バンド」として高く評価している。

## 【コメント出演】

### ■白木 哲也 (しろき てつや)



ソニー・ミュージックレーベルズ ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル マーケティング2部 ゼネラルマネージャー。百貨店勤務を経て、1988年同社入社以来、多くの洋楽アーティストを手がけ、管理職となった今も、ピンク・フロイドやブルース・スプリングスティーン等を自ら担当するなど、“生涯一洋楽ロック・ディレクター”を貫く。アーティストのみならず制作裏話も聞けるブログ”HIGH HOPES”も人気。



## ■ 番組情報



番組ウェブサイト : <https://www.radionikkei.jp/rockandroll/pinkfloyd.html>

Twitter : [@metallic\\_ko](https://twitter.com/metallic_ko) ハッシュタグ [#狂気 50](https://twitter.com/hashtag/kyuu50)

ウェブサイト、Twitter の「ラジオ NIKKEI ROCK'n'ROLL 部」で当特番情報を発信



### 【番組概要】

◇番組タイトル：ラジオ NIKKEI 開局 69 周年記念ロック特番

**The GREAT ARTIST vol.3 「ピンク・フロイド」**

～歴史的名盤『狂気』ほか魅力と愛を語り尽くす～

◇放送日時 : 2023 年 3 月 31 日(金) 19:00～21:00

◇放送メディア :

◎ラジオ NIKKEI 第 2 (RaNi Music ♪)

◎ラジコ (スマホアプリ、PC で聴く/全国無料/タイムフリーで 1 週間聴取可)

出演者 : 木暮"shake"武彦 (ミュージシャン)

鳥井 賀句 (音楽評論家/ミュージシャン)

コメント出演 : 白木 哲也 (ソニー・ミュージック ピンク・フロイド担当)

## \* 補足資料

### ピンク・フロイド BIOGRAPHY



左からリチャード・ライト/ニック・メイソン/ロジャー・ウォーターズ/デヴィッド・ギルモア Hipgnosis/Pink Floyd Music Ltd.

ビートルズ、ローリング・ストーンズ、レッド・ツェッペリンなどと並んで英国を代表するロック・バンドであり、史上最も成功したロック・バンドの1つであるピンク・フロイド。プログレッシヴ・ロックの歴史を作り、常に最前線を歩んできた彼らは、もともとは'60年代半ば、サイケデリック・ロック・バンドとして、天才シド・バレット(G, Vo)を中心に結成された。他のメンバーは、ロジャー・ウォーターズ(B)、リチャード・ライト(Key)、ニック・メイソン(Dr)。バンド名は、ピンク・アンダーソン、フロイド・カウンシルという2人のブルースマンから取られている。

1967年、2枚のシングルをヒットさせたあと、ファースト・アルバム『夜明けの口笛吹き』を発表。高い評価を得たこのアルバムは、シド・バレット色の濃い内容だった。翌年頭に、デヴィッド・ギルモア(G)がバンドに参加。一方、シドは精神に不調をきたしており、実質的にバンドを首に。ピンク・フロイドはそれまでの実験的な面に、長い楽器パートを含んだ曲構成を取り入れ、のちにプログレッシヴ・ロックと呼ばれる体裁を徐々に整えていった。

そして、彼らの音楽が最高の形で実を結んだのが1973年の『狂気』。楽曲、演奏、精神、録音、すべての面において成功したアルバムとっていいだろう。全米No.1を獲得し、チャート内に742週とどまるという記録を打ち立てた。いまだに、最も売れたロック・アルバムの1枚である。その後も1975年『炎～あなたがここにいてほしい』、1977年『アニマルズ』、1979年『ザ・ウォール』と傑作アルバムを連発していく。1985年に、ロジャー・ウォーターズはバンドを脱退。1983年『ファイナル・カット』をリリース後実質的に活動停止。1986年に、ロジャーはバンドを脱退するが、ギルモアを中心とした他のメンバーとの法廷闘争まで発展。

結局ギルモア中心のフロイドとして継続。1987年『鬱』、1994年『対(TSUI)』を発売。その後のツアーも大成功。2006年“ライヴ8”でたった一度だけの奇跡の再結成を果たす。2006年7月7日、ピンク・フロイドの創始者でもあるシド・バレットが死去。また2008年9月15日にはリック・ライトも死去。2014年にはラスト作『永遠/TOWA』をリリース。現時点まで全世界で2億5千万枚以上のセールスを誇り、永遠にロック史に輝く“時代を超越する音芸術”は未来永劫語り継がれてゆく。

出典：ソニーミュージックによるピンク・フロイド公式サイト

<https://www.pinkfloyd.jp/>

\* 『狂気』50周年記念盤の詳細や最新ニュースは上記日本公式サイトをご参照ください